

議事概要

開催日時：令和6年（2024年）1月23日火曜日 13:30～17:30

委員：別紙1（委員名簿等）記載のとおり（委員5名中5名出席）

関係者：国土交通省 港湾局 海洋・環境課（1名）

事務局：ジャパンプルーエコノミー技術研究組合（5名）

【議事要旨】

1. 当委員会の委員の構成は、令和5年度第1回審査認証委員会の委員構成と同一であったことから、その会議において委員長として選定された佐々木淳委員が、引き続き、委員長としての職務を執行し、本会議においても議長となることが異議なく確認された。
2. 本会議において審議の対象となる各申請につき、利害関係を有するおそれがある旨の申告等がある委員については、当該申請の具体的な審議がなされる際には、離席その他の方法により審議に適宜参加せず、これにより、その審議の公正さを手続的に確保し、適正手続の要請を満たすべきこととされている。
そこで、本会議の審議に先立ち、本会議における審議対象である各申請について、利害関係を有するおそれがある旨の申告等が、別紙記載のとおりでなされたことも確認された。
その上で、各委員において、該当する各申請の審議に際しては、一時離席、発言を差し控える等、委員会の審議に不当な影響を及ぼすことのないよう適切な措置を講ずべき旨が確認された。なお、委員長が退席等した際には、必要に応じ、議長の職務を一時行う者を選定する等の措置を講ずべき旨も確認された。
3. 続いて、委員らが本会議の開催前に申請書及び添付資料を確認、検討した別紙2記載の各申請のうち、特に重点的に審議すべき点を中心として具体的な審議検討が行われ、各申請内容等を踏まえ、それらの具体的な藻場面積の確実性及び吸収係数の確実性（以下、これらを併せて「確実性」という。）の評価等に関して審議がなされた。
 - (1) まず、過年度申請からの継続実施、継続申請プロジェクトに関し、確実性の評価に関する審議・検討がなされた。
ここで、当年度申請に係る現地実測データは、少なくとも当年度申請の藻場全体の状況を、サンプルとして代表すべきものである（サンプリング調査として適切（確からしい）ものである）旨の説明が必要であり、これと併せて過年度における、より高精細な現地実測データを斟酌すべきものである旨の意見が示された。

(2) 次に、新規申請プロジェクトに関しても、確実性の評価に関する審議・検討がなされた。

① 新規申請プロジェクトに係る各申請の具体的な審議に先立ち、特に、養殖海藻に係る申請一般につき重点的な審議がなされた。

a まず、そもそも養殖海藻の湿重量を、保守的かつ定量的に評価すべき客観的かつ合理的な手法について検討がなされた。

b また、いわゆる追加性要件の充足に関し、クレジットの認証・発行により、気候変動対策をも目的とする当該プロジェクトが実施・継続され、この新たな人為的活動により、CO₂の除去量（吸収貯留量）がベースラインに比べて増加することが必要である旨、また、海藻養殖そのものがいわば養殖資材という人工基盤を設置するという人為的活動であることから、CO₂の除去量（吸収貯留量）があらたに確保されるという側面は、積極的に評価されてよい旨の意見が示された。

c さらに、養殖海藻や養殖資材等につき、その残置等や廃棄に際していわゆる廃棄物処理法等の関係法令の遵守が必要であるというだけでなく、これに伴う周辺環境の悪化等、環境的・社会的な悪影響は厳に避けなければならない旨の意見も示された。

② 以上を踏まえ、新規申請プロジェクトに関し、確実性の評価に関する審議・検討がなされた。その際には、従前の確実性の評価枠組みを援用しながらも、新たな論点の検討に基づき、評価枠組みの修正がなされた。

4. 以上を受けて、委員長が、出席委員らに対し、以下のとおりの議案を諮り、これを採決したところ、出席委員らの全員の賛成により、本議案は異議なく承認可決された。

(1) 停止条件付決議

当委員会は、当委員会の事務局をして、各申請の申請者（ら）に対し、本会議の審議内容等を踏まえ、各申請書の記載の補正を促し、その補正内容が確認されることを停止条件として、次の①及び②に各記載のとおり決議する。

① 必要に応じ補正された後の各申請に係るプロジェクトについては、「J ブルークレジット®審査認証の手引き」の記載その他の所定の要件を満たすものとして、いずれも承認されるべきものである。

② 必要に応じ補正された後の当該各申請に係るプロジェクトの実施に伴うCO₂吸収量として申請された数量[t-CO₂]については、「J ブルークレジ

ット®審査認証の手引き」その他の所定の要件を満たすものとして、それぞれ認証されるべきものである。

(2) 停止条件の成就の確認の手続き

当委員会の事務局は、前記の各申請書の記載の補正を受け、委員長に対しその補正の内容を送信し、確認を求めるものとする。この送信に際しては、その余の委員らに対しても、その複製を送信することとし、委員長は、その裁量で、その余の委員等に対し、必要に応じ意見を求めることができるものとする。

その上で、当委員会は、前記の停止条件の成就の確認について、委員長にこれを一任する。

5. 以上のとおり審議・採決を行い、会議は終了した。

J ブルークレジット 審査認証委員会（令和 5 年度第 2 回）

別紙 1

委員名簿等

令和 6 年（2024 年）1 月 23 日現在

	氏 名	所 属 等	専 門 分 野	
委 員	岡田 知也	国土交通省 国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部 海洋環境・危機管理研究室長	沿岸環境、生態系サービス等	出 席
委員長	佐々木 淳	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授	沿岸環境、環境再生等	出 席
委 員	鈴木 健司	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター センター長兼検証審査部長	クレジット算定・検証・認証、 オフセット制度等	出 席
委 員	中西 敬	徳島大学環境防災研究センター 客員教授	生態系工学、沿岸域の環境修復	出 席
委 員	長谷川夏樹	国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源開発センター 沿岸生態系寒流域研究グループ 主任研究員	水産増養殖、海藻類等	出 席 [Web]

J ブルークレジット審査認証委員会（令和5年度第2回）

別紙2

J ブルークレジット審査認証委員会令和5年度第2回審議対象申請一覧

管理番号	プロジェクトの名称	審議等回避申告
JBC00000029	北海道白老町 いぶり海岸の人工リーフにおける藻場つくりと漁業振興	
JBC00000034	三重県熊野灘における藻場再生・維持活動	
JBC00000044	利尻富士町のリシリコンブを活用したBC事業～日本のだし文化を守る取り組み～	
JBC00000045	鳥羽港周辺海域の漁業と観光業連携による海女文化・地域振興に資するBCプロジェクト	
JBC00000047	みんなでつくる佐世保九十九島の藻場造成	
JBC00000055	榛南地域における藻場再生プロジェクト	
JBC00000061	コンブ養殖による藻場の創出・保全活動「北海道ふくしま町“青×蒼”プロジェクト」	
JBC00000073	「神戸の須磨海岸を里海に」Suma 豊かな海プロジェクト	中西委員
JBC00000081	北海道増毛町地先における鉄鋼スラグ施肥材による海藻藻場造成	佐々木委員
JBC00000087	千葉県君津市沿岸における鉄鋼スラグを用いた地盤改良技術による海藻藻場造成	岡田委員、佐々木委員
JBC00000090	海のゆりかごブルーカーボンプロジェクト in センザキ	
JBC00000091	岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動	
JBC00000092	北海道古宇郡泊村地先における鉄鋼スラグ施肥材による海藻藻場造成	佐々木委員
JBC00000094	豊穡な伊勢志摩における環境配慮型「あおさのり養殖」の未来に向けて	
JBC00000096	萌える海藻！鳥取県の豊かな海を育む大作戦	
JBC00000097	あおもり駅前ビーチでブルーカーボン	